

## R4-13

## 災害対処訓練

- 管 内 宗谷管内  
 ■分 類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（ ）  
 ■教育課程 教科（ ）科 道徳 総合的な学習の時間 特別活動  
 ■校 種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校  
 ■取組のポイント

- 関係機関と連携した、災害発生時の迅速な避難方法と危機対応能力の向上を図る避難訓練の実施
- 災害を身近に感じることを目的とした、関係機関の対応や使用される車両等を用いた防災教室の実施

## ■取組の実際

## ねらい

- 陸上自衛隊員の助言を受けながら、災害発生時において、どのような行動が必要となるかグループで話し合い、災害発生時の「主体的な行動」の重要性について理解を深める。
- 災害発生時の陸上自衛隊の対応について説明を受け、実際に使用される車両等に触れることで、災害を身近に感じたり、適切に対応したりする力を養う。

## 内 容

## 1 避難訓練の「振り返り」として実施するグループワーク

避難訓練終了後、陸上自衛隊員から避難状況に関する講評をいただいた。また、なぜ日頃から災害の準備や心構えが必要なのかについてペアやグループで話し合いを行うことで、生徒は主体的に防災について考えたり、他者の意見を聞いて自らの考えを深めたりすることができた。



【講話を聞く生徒の様子】

## 2 防災を身近に感じるための防災教室の充実

避難訓練終了後、陸上自衛隊の協力を得て、災害発生時に行う緊急人命救助の方法や傷病者の支援方法を学んだ。また、災害発生時の装甲人員輸送車への乗車降車訓練や、自衛隊が遭難者捜索を行うために使用するドローンやファイバースコープの体験などを通して、災害を身近に感じる事ができた。



【装甲車の説明】



【ペアワークの様子】

- 生徒の感想
  - ・災害を身近に感じる事ができた。自分たちの身は自分たちで守るという意識を高める良い機会となった。
  - ・陸上自衛隊の方々、自分たちの安全を守ってくれていることを実感できた。感謝したい。

## 成果と課題

- 普段、直接目にする事の少ない陸上自衛隊の災害対応を体験することで、より一層災害を現実的なものとして考えさせることができ、災害発生時の対応についての知識を習得させることができた。
- 本行事の実施については、3年に1度としているが、毎年実施内容を更新し、継続的な実施を検討する必要がある。